

— 資 料 —

日本語力養成の試み 1

武 藤 美也子

Experiments in Developing the Proficiency of Japanese Language (Part I)

Miyako MUTO

要 旨

年々低下している短大生の日本語能力を養成するための本校での試みの報告 1 である。その試みの中の「文章整序問題」について解説する。

キーワード：日本語 Japanese language, 日本語能力 proficiency in Japanese, 養成 development, 文章整序 logical construction of sentences, キーワード key word, 言葉の連鎖 word linking

1. はじめに

昨年（平成16年）独立行政法人「メディア教育開発センター」の小野博教授（コミュニケーション科学）らの調査により、大学生の「日本語力」が中学生レベルというお寒い状態であることが報告された。中学生レベルの国語力しかない学生が国立大で6%，四年制私立大で20%，短大では35%にのぼるといふ。「憂える」の意味を「喜ぶ」と思いこんでいる学生が多いなど、外国人留学生より劣る実態で、授業に支障が出るケースもあるという。そして「入学後の日本語のリメディアル（やり直し）教育が必要」（産経新聞2004/11/26）と指摘する。

本校においても入学生の文章能力の低下を年々実感している。文章という以前にノートも満足に取るができない学生が増えてきている。教師の説明する言葉が理解できないのである。言葉は人間の思考の根幹にあるもので、この言葉の能力、日本人としての日本語の能力をどのようにすれば引き上げることができるかが大きな課題となっている。

「日本語表現法」「実践日本語表現」等の授業をカリキュラムの中に組み入れることをしているが、日本語能力の養成はこれ以前の問題であり、如何にすれば学生の日本語能力を高められるのか模索を続けていた。そこで上記の小野博教授の調査発表に関連した次の記事に注目した。「埼玉県の大学が三カ月間、週に一度、ひらがな文を漢字かな交じり文に直したり、四つの単文を並べかえて文章にする訓練を行った。その結果、一部のテストで平均点が65点から96

点になるなど短期間の訓練で、理解力が大きく伸びることが確認された。」(産経新聞2004/11/26)そこで我が校でもこれを実践して見ることにした。

埼玉県の大学がどのような訓練を行ったかの詳細は不明であるため、この記事を参考に本校独自の方法で、日本語能力の養成を試みることにした。

総合生活学科には「学問へのアプローチ」という1年次生必修科目がある。この科目は入学してきた学生に対して、大学での勉強を如何に進めていけばよいかを指導するために置かれたものである。この授業を利用して、「日本語力 up」と銘打って、日本語能力養成の試みをすることにした。

2 日本語力 up 実施体制

「学問へのアプローチ」の受講生は1クラス約40名で4クラス。各時間の最初30分をこの日本語力 up に当てた。

「日本語力 up 問題」の形式は2問形式。

第1問 平仮名文を漢字仮名交じり文に書き改める問題(5題)。

第2問 文書整序問題(2題)。

第1問目の漢字仮名交じり文への書き改めには同音異義語・常套句・ことわざ・四字熟語を取り入れた。同音異義語が日本語には多いこと、意味を考えて漢字に変換しなければならないこと、一般常識といわれる常套句等の力がつくようにと考えるの出題である。

第2問の問題文の出典は、新聞 小説 就職常識試験 国語問題集 その他から出題し、知らず知らず時事・新聞の表現や名作に触れ、知識が増えるように考えた。

30分の最初15分で問題をやらせ、その後解答を示し自己採点させる。解答は教員が必ず板書することとし、学生には専用ノートを作らせ、正解をノートに全文書き写させる。1回でも書くことにより習得させるためである。

3 学生と教員への「日本語力 up」問題の意義の周知

教員、学生それぞれにこのテストの意義を認識してもらい、自覚的に取り組んでもらうため、最初の時間に次のプリントを全員に配布した。教員用と学生用それぞれに作成し、主体を考えた指示をしたが、内容はほとんど同じであるので、学生用配布のものを以下に示す。

これは国語のテストではありません。あなたたちの語彙力を向上させるための演習です。言葉はすべての基礎です。感じるのも考えるのも伝えるのもすべて人間は言葉によって行います。だから言葉力を付けることが人間力を付けることになります。ですが言葉力というのは一朝一夕にはつきません。一番確かなことは、できるだけ多くの言葉、文章に接することです。

この小演習が、少しでもあなたたちの言葉力アップに役立ち、あなたたちに自信を持っ

てもらえたらと思っています。成果は目に見えて分かるものではありませんが、真面目に取り組んでみると、きっと効果が出てくるでしょう。楽しみに頑張りましょう。毎週最初の30分間に行います。

2 問目の文書整序問題については、初めての経験者が多いと考え、次のような指導をした。

就職試験対策講座にも「文章整序問題」という章があります。どうしてこのような章がわざわざ就職試験に出されるかという、この問題は単に文章を並べ替えるという国語の問題ではないのです。文章の構造を考えるとすることは、物事の筋道を認識するという事です。これは自分の中で考えや方法を深めていくときにも、また他人に自分の考えを説明するときにも大変役に立ちます。論理的考察力を獲得させる一つの方法なのです。このことを念頭に置いて、論理的に考えて解答に近づいていってください。

そして解くための手がかりとして次の文章整序問題の解き方を〔ヒント〕として示した。

- ① 選択肢から冒頭文あるいは結語の文章を絞り込む。
- ② 指示語をチェックしてキーワードとなる語句の出る順番を確認する。
- ③ 接続詞やつなぎ表現に注意して、選択肢同士の関係を見る
- ④ 出典がある場合はそれにもヒントがある。

4 「学問へのアプローチ」で実施した文章整序問題

第1回目

指導教員には下線を施し、正解を導き出すために注目するとよいキーワードを示した。

I ① トッパーコートを着た彼女は明るく笑っていたが、その目は鋭かった。

- ② ぼくは注意して石垣さんを見た。
- ③ しかしぼくの前にいる石垣さんは、目がくりっとしていて、愛嬌がある女の子だった。
- ④ ぼくが思っていた石垣さんは、もっとオバサンであるはずだった。
- ⑤ 石垣さんなら四十代に入っているはずである。

石垣りんさんを悼む 新聞04.12.28

(答え) ④-⑤-③-②-①

II ① どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

- ② おはようございます。
- ③ 今は先輩たちを前に、不安と緊張感でいっぱいです。
- ④ 今日から2週間研修生としてお世話になります、神戸女子短大1年の麻耶順子です。
- ⑤ 何もわかりませんので、ご指導いただきたいと思います。
- ⑥ 研修を通して、現場の実情を学んでいきたいと思っております。

「日本語表現法」研修先での自己紹介

(答え) ②-④-③-⑥-⑤-①

第2回目

下線に加え（ ）内に指導の参考を示した。

I ①11億人近いカトリック教徒の精神的な支柱で、母国ポーランド東欧諸国の変革にも影響を与えた。

②104回の外国訪問で訪れた国は129にのぼり、「空飛ぶ聖座」と呼ばれた。

③四半世紀余にわたる在位中、他宗教と対話や和解を進め、世界の平和を訴えた。

④ローマ法王ヨハネ・パウロ2世が2日、バチカンの法王宮殿で死去した。

ローマ法王死去 05.4.4新聞

(答え) ④-③-①-② (全体から細部という説明の順序で展開されている。)

II ①81年に広島で発した言葉が、その手から伝わってくるようだった。

②10年前、バチカンで法王と握手する機会があった。

③「戦争は人間のしわざです。戦争は死そのものです」。

④若き日にハンマーを握ったかも知れない手には、厚みがあった。 天声人語 05.4.4新聞

(答え) ②-④-③-①

第3回目

I ①震災被害者への配慮などで延期、その優しさに国民は心打たれた。

②紀宮さまと黒田慶樹さんの婚約内定発表である。

③昨日待ちかねた朗報が列島を温かく包んだ。

④末永くお幸せに。

04.12.31新聞

(答え) ③-②-①-④ (最初と締めくくりを考える。)

II ①異世界の魔法なんか使えなくてもいい。(魔法なんか使えなくてもやっていける)

②読んだ人がそう感じてくれたらうれしい。

③年齢が幼く、体が小さいのは普通は弱点。

④自分の弱点は、そのまま現実に対抗し、この世界を生きていく武器になる。

⑤でもこの話では、それが生きるための力になる。(逆説の接続詞、前に反対の事柄が来る)

作家乙一 新作について 05.01.05新聞

(答え) ③-⑤-①-④-②

第4回目

1回目から毎回「なぜそのような順番にしたかを、メモ程度でいいですから空いているところに書きなさい。」と指示しているが、書いている様子がないので、第4回目からは教員に「必ず順番についての理由を空いているところに書かす」ように指示した。考えないで気分で進める学生と、熟考してする学生と二分化しているのでその解決法の一案として指示した。また整序問題の解答の時に先生にその理由を指導してもらうために、教員の解答用に「正解への考え方」を付け加え、これを必ず教員が読み、解き方を指導するようにした。

I ①陸に上がって逃げようとしたが、一瞬で背中を押されるように流された。

②乗っていた舟の下の水がすべて引いた。

③海を見ると、渦のようなものが見えた。

④ホテルにチェックインするため、小さな舟に乗り換えたところだった。

⑤近くの浜辺にいた人たちが何か叫んでいた。 スマトラ沖地震 04.12.28新聞

(答え) ④-⑤-③-②-①

【考え方】船に乗っていたから船の下の水がすべて引いた。そして水が無くなったので陸に上がって逃げようとした。人たちが何か叫んだので海を見た。流されてしまったからでは叫んでいる声も渦も見ることができない。

II ①ムキエビ、ホタテの貝柱100gを粗みじんにします。

②白菜4枚をさっとゆでます。

③軸の方を5割ほど切り落とし、みじん切りにします。

④4等分にして、白菜の葉で巻きます。

⑤ボウルの中にエビ、ホタテ、白菜の軸を入れ、片栗粉小さじ1、塩、胡椒を加えてよく混ぜます。 料理メモ 05.02.17新聞

(答え) ②-③-①-⑤-④

【考え方】みじん切りしたものをゆでるということはない。⑤の時点ではすべての材料が用意されていないからではない。

第5回目

I ①「しんどいことしたら……」というのは、春に発表する学級目標。

②子どもたちが、新しい教室、新しい友達、新しい先生に期待し、ワクワクしています。

③それは、子どもたちに寄り添って裏切らない言葉だと感じたからでした。

④教師が一番緊張する時です。

⑤4月、新しい学年が始まります。

⑥一年間を充実した楽しいものにするためにはスタートが大事。

⑦私はこの言葉を毎年使っています。

しんどいことしたら、ええことが 05.02.01新聞

(答え) ⑤-②-⑥-④-①-⑦-③

【考え方】新しい学年が始まり、新しい教室新しい…、新しい…と続く。そしてスタートとなり、教師が一番緊張するとなる。⑦に「この言葉」とあるので前に「 」でくられた言葉を探す。③の「それは」は何を受けるのか考えると、⑦の「この言葉」である。

II ①人生は自分自身の作品。

②仲間との縁を強く意識するようになった。

③今、人生これからだという気持ちがムラムラとわき上がっている。

④自分がどんな作品を作り上げるのか楽しみ。

還暦に何思う 05.01.07新聞

(答え) ①-④-③-②

【考え方】人生は自分自身の作品という考えを示し、だから自分がどんな作品を作るかが楽しみと続く。そして題の「還暦に何思う」にも注目して、私の人生はこれからだということになり、だから仲間を大切にしたいと思うようになったとなる。

第6回目

I ①3日間、一睡もできず、煮詰まってしまう。

②当然、眠っていないから、ウトウトしてくる。

③一昼夜、寝続けることもある。

④寝ると10時間は当たり前。

⑤絵の構想が、思い浮かばない。

05.01.11新聞

(答え) ⑤-①-②-④-③

【考え方】正解率が高いのではないか。構想が思い浮かばない→一睡もできない→眠ってない→ウトウトする→寝ると十時間→一昼夜のこともある

II ①この際、思い切って列車を利用して出かけることにした。

②大雪のニュースを見ていた小学校5年の娘が残念そうに言った。

③「みいちゃんは雪だるまを作ったことがないよー」。

④岡山県北に近づくと雪が見え始め、やがて白一色。

⑤車の運転に自信がなく、今まで雪を見に連れて行けずじまいだった。

雪遊びの旅 05.02.23新聞

(答え) ③-②-⑤-①-④

【考え方】③-②は「言った」とあるので前にカギ括弧の文が必要。①-④は「この際出かけることにした」それで雪の景色が見えてきたということだ。この組み合わせは容易に見つけられるだろう。①に「思い切って」とある。どうして「思い切って」なのかを考える。そうすると⑤の「車の運転に自信がなく」が思い当たるだろう。すると⑤-①-④とつながる。次はこの組み合わせと③-②の組み合わせが、どちらが先にくるかである。そのどちらかということで考えてみると、みいちゃんが雪だるまを作ったことがないと言ったのは大雪のニュースを見ていて自分も作りたと思ったのであって、雪道の車の運転に自信が持てず連れて行ってやれなかったからではない。そうすると⑤は③の前に入ることはなく③-②と続いたその後ということになる。

第7回目

I ①だから「13歳のハローワーク」の企画にすごく共感した。

②〈仕事は強制されてやるものじゃない。好きなことをやるもんだ〉

③朝9時から夜12時まで、御飯を食べるとき以外机に向かった。

④村上隆さんから日頃聞いていたメッセージ。

⑤200枚余の挿絵を仕上げたら、春が秋になっていた

絵本作家はまのゆか 夢あきらめないで、まめちゃん 2005.4.6新聞

(答え) ②-④-①-③-⑤

【考え方】②-④, ③-⑤の組み合わせは容易。①がどこに入るかだ。「だから～共感した」とある。だからという接続詞があるので前に共感できる理由になる事柄を探す。すると「日頃聞いていたメッセージ」しか、この中では見つけられない。

II ①大阪の女子校で「きれいになるため」の講義をしている。

②例えば太いフトモモ。

③そんなにも短いスカートでは、足が太いと世間に公表しているみたい。

④隠さないと行けないところは他にもあるよ。

⑤化粧をするなどと言ってもするので、その化粧できれい？と聞く。

⑥せっかくの若くてきれいな肌を化粧で隠すの？

「きれい」の敵は「まゝいいか」05.3.26新聞

(答え) ①-⑤-⑥-④-②-③

【考え方】これは正解の人が多いのではないか。身近な話題だし言葉で連鎖が取れる。①「きれいになるため」→「きれい？」→「きれいな肌を隠すの？」→「隠さないと行けないところ～あるよ」→「太いフトモモ」→「足が太いと」

第8回目

I ①自分で望んだわけでもないのに、この世界に産み落とされる。

②好ましい親さえ選べない。

③正直言って訳がわかりません。

④誰が決めたのかわからないけど、各人への要求はずいぶんと厳しい。

⑤そのうえなぜか最後まで、立派に生き抜くことを期待されているのです。

⑥ぼくたちは、好きな時代に生まれることも、好きな世界を選ぶこともできない。

石田衣良 生きるって大変 それでもぼくたちは 2005.4.4新聞

(答え) ⑥-②-①-⑤-④-③

【考え方】②「さえ」とあるので前の文にそれ以外のものが書かれているのを見つけると⑥である。⑤に「そのうえ」とあるので①の「産み落とされる」を受ける。また⑥②と否定否定と来てまた「望んだわけでもない」と展開される。④に「要求」とあるので、その前にその内容がある。すると⑤の「立派に生き抜くこと」となり、結論的な③の気持の吐露で締めくくられることになり、順番が確定される。

II ①女性は寿命が長いし、長く働けると思うのです。

②だから今のクリニックでは、子育て後の気合いを入れ直した女性に加わってもらっていま

す。

③保険や介護の分野は圧倒的に女性の力が必要。

④卒業のときは、みんな希望に燃えていたのに、結婚・出産などで働けなくなるのはとても残念。

対馬ルリ子院長 05.02.19新聞

(答え) ③-①-④-②

【考え方】②「だから」とあるので前に理由が必要。④の「とても残念」がそれに当たる。③の女性を受けて①の女性がある。①②の続きは「長く働ける」のに④「働けなくなるのは」とつながる。

第9回目

I ①島には花粉を媒介する蝶や蜂が少なくその代わり蛾が多い。

②実はこれも進化。

③確かに、保護区で見た花の色はどれも白。

④そこで蛾を引きつけようと、花の色は薄暗くても目立つ白になったという。

⑤その時間帯は、薄暗い。

⑥蛾は飛ぶ力が弱く、風のない朝夕しか飛べないらしい。

地球クラブ 05.02.26新聞

(答え) ①-⑥-⑤-④-③-②

【考え方】これは比較的考えやすいと思われる。①「蛾が多い」から蛾の説明の⑥と続く。⑤「その時間」とあるので「朝夕」とある⑥に続く。④「そこで…薄暗くても」とあるので「薄暗い」がある⑤に続く。そして「目立つ白」とあるので③の「確かに…白」と続く。このように考えてくると正解が自ずと出てくる。

II ①疑問はもとより、研究心が薄い人が多い。

②この繰り返しを行うと、理解できた面白みとともにより確実な納得が得られる。

③鵜呑みという言葉は、鵜飼の鵜が、鮎などの魚を丸呑みすることに由来するのであろう。

④たとえ大学者の教えでも、疑問を抱き、解く。

⑤あなたたちの世代は、相手の考えを鵜呑みにする傾向が強いように思えてならない。

「日本語表現法」

(答え) ③-⑤-①-④-②

【考え方】言葉の連鎖で解いていく。③「鵜呑みという言葉」-⑤「鵜呑みにする」とこのグループが作られる。③-⑤。次に⑤に「あなたたちの世代は…傾向が強い」とあるのでその内容が書いてある④がみつけれられる。⑤-④。②には「この」という指示代名詞があるので、これが何をさしているか考える。すると④の「疑問を抱き解く」であることが分かる。⑤-②。最後の残った①がどこに入るかを考える。「疑問」という言葉がある。ここで言葉の連鎖を思い出す。すると④に「疑問」の言葉がある。どちらが先か考えると①には「研究心が薄い人が多い」とあり、そのたとえば④ということになり、①が先となる。④-①。以上を総合してまとめる

と解答が出てくる。

第10回目

I ①私も食べた。

②皆おいしいとってくれた。

③私は取りつかれたように、大きい鍋いっぱい小豆を炊いて、あんを作った。

④母の味に近づいた、と自負できるほどおいしかった。

⑤実家に帰り、食品庫を見ると小豆ともち米がそろえてあった。

おはぎが好きだった父 05.02.01新聞

(答え) ⑤-③-②-①-④

【考え方】まず⑤「小豆ともち米がそろえてあった」とあるので③の「小豆を炊いて、あんを作った」となり、⑤-③がつながる。①には「も」という助詞があるのでその前に「も」に対するものが必要。そうして探してみると②に「皆」がある。すると②-①とつながる。①の「私も食べた」そしたら「美味しかった」とある④に続く。そこで全体を見回すと⑤-③-②-①-④という解答が導き出される。

II ①例えば言葉を同じ「空」でも、思い浮かべる情景はみんな違う。

②気持は人それぞれでしょう。

③これではほかの人の言葉は使えない。

④言葉を発するときには、まず気持があるわけ。

⑤だから、本当は同じ言葉とは言えないね。

⑥そして、それを表す言葉も人それぞれ。

⑦作文は、その「自分の言葉」を手に入れるために必要な練習です。

⑧だから自分の言葉が必要なの。

角田光代 「自分の言葉」手に入れて 05.02.26新聞

(答え) ④-②-⑥-①-⑤-③-⑧-⑦

【考え方】長文なので少し手強い。まず全体を見て「言葉」という単語が頻繁に使われているので、これは「言葉」についての文章だと見当をつける。言葉という語句はどれにも出ているので他のキーワードで関係を見てみる。いつも言っている言葉の連鎖で考えていく。すると「気持」が②と④にある。②に「人それぞれ」とあり⑥にも「人それぞれ」とあり、ここに言葉の連鎖を見つけることができる。そこで②④⑥の順番を考えると④②⑥となるのは分かる。④-②-⑥。次に①に「例えば」とあるのでこの前に何か定義がなければならない。それは⑥の「言葉も人それぞれ」で、それを受けて「情景はみんな違う」となる。⑥-①。あと残りは⑤③⑧⑦だけ。⑤⑧には「だから」とあるので前に理由がある。そう考えて見てみると①の「同じ空でも…みんな違う」を受けて⑤「同じ言葉とは言えない」となり(①-⑤)、⑧の「だから」は③の「ほかの人の言葉は使えない」を受け「自分の言葉が必要」と続く。そして

「自分の言葉が必要」ということで⑦の「自分の言葉を手に入れる」と続く。③-⑧-⑦。すると自ずと答えが出てくる。

第11回目

I ①白馬はひどい傷を受けながら、走り続けて大好きなスーホーの所に帰ってきたのです。

②「白馬だよ！うちの白馬だよ！」

③見ると、ほんとうに白馬はそこにいました。

④スーホーは、はね起きてかけていきました。

⑤けれどその体には矢が何本も突き刺さり、汗がタキのように流れ落ちています。

『スーホーの白い馬』大塚勇三

(答え) ②-④-③-⑤-①

【考え方】ポイントとなる言葉は③の「そこにいました」と⑤の「けれど」だ。目安を立てておいて、全体を見る。④に「はね起きてかけていきました」とあるのでその前に根拠が必要。それは②の「うちの白馬だよ」で②-④となる。すると「本当に～いました」と続く。「いたのだけれど」ということで逆説の⑤の「けれど」へと続き、「矢が何本も突き刺さり」で⑥の「ひどい傷」と連なる。これも一種の言葉の連鎖である。以上をつなげると解答通りとなる。

II ①河上君は慌てて折りたたみ傘を取り出した。

②隣のクラスの中田裕子が好きだ。

③河上君は神戸の県立高校生だ。

④河上君が近寄ると、中田裕子の目には涙が。

⑤雪の日、三ノ宮の駅前で河上君は彼女にあった。

⑥まだ一度も口をきいたことがない。

超短編小説連作 05.02.26新聞

(答え) ③-②-⑥-⑤-④-①

【考え方】難しくはないだろう。まず登場人物の紹介③。その彼は②の「中田裕子が好きだ」と続く。だが一度も口をきいたことがない。それが偶然学校以外で彼女に会った。そこで近寄り話しかけようとする、彼女の目には涙が…。彼は慌てて…、ということになる。この順番を当てはめると解答が出てくる。

5 今後の日本語力upの試み

今回のこの「日本語力 up」の文章整序問題を作成して分かったことは、どの文章も論理的に展開されている(勿論問題文として出す以上そのような文章を選んでいるのであるが)ということである。学生も最初はなんとなく感覚で並べ替えていたが、次第に細かく読むようになってきた。そうすると文章の順番が見えてきたという感想を述べていた。この問題を作成・実施し、学生の感想等から、文章整序問題を解くためのキーは次のようなものだと考える。

①選択肢から冒頭文あるいは結語の文章を絞り込む。

- ②キーワードとなる語句を考える。
- ③言葉の連鎖を考える。
- ④指示語をチェックして順番を確かめる。
- ⑤接続詞やつなぎ表現に注意して、選択肢同士の関係を見る
- ⑥助詞にも注意を配る。例えば「も」など。
- ⑦出典がある場合はそこにもヒントがある。

以上が今回行った日本語力 up の「学問へのアプローチ」での指導である。今回の試みについては最初の第1回目と中間の第5回目、最終の第11回目については全学生の答案を回収しているので、それらについての分析をこの後したいと思っている。ここでは今回の試みを報告することによって広く意見を求め、今後の我が校の日本語力 up の取り組みの展開につなげていきたいと考えている。

また今回のこの試みは、「学問へのアプローチ」の前半の30分を当てて行われた。諸事情により発案者であり課題出題者である本人・武藤がその実施現場に立ち会うことができなかったために、今回の現場での状況、学生の反応等を現場でつかむことができなかった。そこで今後は当該教員の武藤が自分の授業の中で実施していくこととしたい。

最後にご協力いただいた先生方に感謝の意を捧げたいと思います。